RERF Update 2015年第26巻2号（冬季号）より抜粋。本号は次のURLからアクセスできます。

http://www.rerf.or.jp/library/update/pdf/2015vol26_2J.pdf

第５回被爆二世臨床調査科学倫理委員会

広島臨床研究部長　大石和佳

第 5 回被爆二世臨床調査科学倫理委員会が、2015 年 5 月 14 日（木）午後 2 時から放影研広島研究所の講堂で開催され、「被爆二世臨床縦断調査の進捗状況」および「被爆二世臨床調査：予備集計結果報告」について審議が行われました。

2002 年から 2006 年に行われた最初の被爆二世臨床調査（第 1 健診サイクル）は、親の放射線被曝と子どもの多因子疾患（高血圧、高コレステロール血症、糖尿病、狭心症、心筋梗塞、脳卒中）有病率との関連性を調べることを目的とする調査でした。その結果、多因子疾患を一括して解析した場合と個別解析した場合のいずれにおいても、親の放射線被曝に関連した疾患リスクの増加を示す証拠は見られませんでした。しかしこの有病率調査では、受診の意思決定に偏りを生じる傾向があること、対象者の方の平均年齢が約 49 歳とまだ若かったことなどから継続調査の必要性が勧告され、2010 年 11 月 24 日から約 1 万 2 千人を対象に被爆二世臨床調査（第 2 健診サイクル）を開始しました。

議事は、Roy E. Shore 副理事長のあいさつで始まり、児玉和紀主席研究員による委員の紹介、島尾忠男委員長のあいさつに続いて、大石が被爆二世臨床調査（第 2 健診サイクル）開始後 4 年間の進捗状況について発表しました。第 2 健診サイクルでは、4 年間に約 1 万人が健診を受けられ、目標とする 80％の受診率をほぼ達成したこと、第 3 健診サイクルへと順調に調査が進んでいることを報告しました。また、将来の研究のための血液、尿の保存・使用に関して、ゲノム・遺伝子解析を含まない研究では約 99％、ゲノム・遺伝子解析を含む研究でも約 97％の方から同意が得られていること、そして臨床調査への継続的な参加に対しては 99.7％という非常に高い率で同意が得られていることなど、受診者の方々の本調査に対する高い理解と協力が得られていることを報告しました。

次に、立川佳美副主任研究員が、被爆二世臨床検査・第 2 健診サイクルの最初の 3 年間の受診者を対象に行った予備集計結果について発表しました。多因子疾患の有病率と発生率、第 1 健診サイクル時の情報を用いた第 2

広島研究所で開催された第５回被爆二世臨床調査科学倫理委員会

健診サイクル受診者と未受診者との生活習慣や疾患有病率の比較検討結果、その結果を踏まえた今後の解析計画などの報告について、武部 啓 副委員長の司会で活発な質疑が行われ、委員の先生方から貴重なご意見をいただきました。これまでの受診状況から、2015 年 10 月末までに第 2 健診サイクル対象者の大半が受診すると推測されることから、その受診者も含めた本集計を行い、今後の統計解析計画について更に詳細な検討を行う予定であることを説明しました。最後に、島尾委員長の総括、児玉主席研究員による閉会のあいさつと謝辞で委員会は締めくくられました。

これからも多くの方々から本調査に対する理解と協力が得られるよう、研究の意義を説明する努力を続けるとともに、当所の健診が受診者の方々の疾患の早期発見・早期治療や健康管理に役立つよう、健診の内容を充実していきたいと考えています。

被爆二世臨床調査科学倫理委員会

委 員 長：	島尾　忠男	公益財団法人 結核予防会顧問
副委員長：	武部　　啓	京都大学名誉教授
委　　員：	上島　弘嗣	滋賀医科大学アジア疫学研究センター特任教授
	川本　隆史	国際基督教大学教養学部哲学・宗教学デパートメント教授
	木村　晋介	木村晋介法律事務所弁護士
	佐々木英夫	安田女子大学家政学部管理栄養学科教授
	Steve Wing	米国ノースカロライナ大学公衆衛生学部疫学科准教授
	田島　和雄	三重大学医学部附属病院 病院長顧問
	朝長万左男	長崎大学名誉教授
	野村　大成	大阪大学名誉教授
	早川　武彦	広島大学名誉教授
	福嶋　義光	信州大学医学部遺伝医学・予防医学講座教授
	振津かつみ	兵庫医科大学遺伝学講師
	丸山　英二	神戸大学大学院法学研究科教授

放影研

大久保利晃	理事長
Roy E. Shore	副理事長兼業務執行理事
寺本　隆信	業務執行理事
Robert L. Ullrich	主席研究員
児玉　和紀	主席研究員
秋本　英治	事務局長
Douglas C. Solvie	副事務局長

および

被爆二世臨床調査プロジェクトグループメンバー

臨床研究部研究員